



自治協議会が 元気な地域づくりの  
今、を発信

# 福富地区

(No.10)

## 安全、安心の 地域づくりを目指して

今年7月の九州北部豪雨によって亡くなられた方々、被災された方々に心からお悔やみ、お見舞いを申し上げます。

今回の豪雨では福富地区に土砂災害はありませんでした。しかし、耳納山麓を背にしたこの地区はかなりの地域が土砂災害警戒区域に指定されており、過去に幾度となく土石流（山汐）の被害に見舞われてきた歴史を持っています。残された古文書にも集落全滅の様子が多数記録されています。

そこで、今年度は九州大学から要請のあった、山汐災害に関する地域の伝承や住民意識に関するアンケート調査を全世帯に実施するとともに、講演会や学習会を行っています。

講演会、学習会を通して課題も明らかになっています。今後大きな土砂災害が福富地区にも起こることを想定し、まず身近なところ

でみんなが話し合いながら防災体制や防災意識を高め、福富地区全体の安心安全の地域づくりを目指していきたいと思えます。



▲防災講演会  
(九州大学西山准教授のお話)

## サルビアロード

### の取組

県道浮羽草野久留米線、通称県道山辺線に今年もプランターに植えられたサルビアの花が4キロメートルにわたって咲き誇っています。私たちはこの道をサルビアロードと呼んでいます。

サルビアの展示は、1990年

に福岡県で国民体育大会（とびうめ国体）が開かれ、浮羽地区も会場になったことから、県内外の来訪者を歓迎しようとの目的で始まったものです。

始まってから27年の歴史を刻んでいます。苗の植え付けや管理などの大変さから、花の道が途中で途切れた時期もありました。

しかし、沿道各区の皆さんの協力のおかげで再び沿線すべての行政区で取り組まれるようになり、福富地区のシンボリック的存在になっています。新築されたコミュニティセンターの愛称も「福富サルビアホール」となっています。

水やり、花摘み、肥料やり...と、管理が大変ですが、赤いサルビアの花が途切れることなく続き、道行く人々の目を楽しませています。



▲サルビアロードを登校中

## はじめての

### 通学合宿

通学合宿は他の地区ではすでに行われているところもありますが、福富地区では宿泊や調理の設備がなく、これまで実施できませんでした。

しかし、新しいコミュニティセンターが完成したのを機会に、10月に小学4年生以上の児童18名がはじめての合宿を行いました。

地域のスタッフの皆さんの心強い支援に支えられ、3泊4日の日程を終えることができました。

これからも子どもたちのさまざまな活動を地域が見守り、支援していくとともに、子どもたちは地域の文化や伝統を受け継ぎ、活気、元気を地域に返していく、そんな共生の輪を広げていきたいと思えます。



▲みんな頑張りました

●問合せ 市民協働推進課 コミュニティ支援係 075-54982